



儀士傳實記



儀士傳實記卷一

儀士席恒々并也



一 凡志儀為小死す不顧難不勝之生或ふは者皆士
の常とある愛之難能先成守る者ハ古今緒言に
大石因縁也子難之そ亦係る是後代の侍有るその
先祖成る小田忠成を其口の後源之——と云ふに
川と出づ國大石村小住者——と別大石と云ふて其
二天後建家代乃長白と——と忠儀成字為由、其の
乃成白と云ふは其主忠成後成因由也能不幸と云
其とて其以来全石の儀士四拾七人覽の成也——

才代塵芥り初也是り名代早織小汚し子難苦苦奉
 て云へりは此之の志音儀由の由り難挽要固成其
 一 町成割云々其の代成儀寄るの懐り成念志の志儀
 成之知寄然大時未も此に在り成と中にお成時成今身
 之承主牛重を一旦辨然こしと云ふ言不致し一經名
 急物存仍の代成報し俱小天代成の代成寄此中密策
 志大存了すしと云ふ言古未括し在今に冠たり一詳りし
 成門の準繩人臣の免過りし都鄙の考儀是代成供て
 嘆福及ひを成り其系中の旨自記成りありし

淺野因述は御用之御付少少語の事

元承十四年辛巳三月三日
 京朝公系元系向て式礼儀有し此此元人派理因述以長
 能福良城主胸其石伴達在京元富春河以音胸其石
 每人此御付長侍長因述以長志外橋田山門此相知し
 服後流過馬屋五照と流し代り在京元包屋と永代橋火消此
 役此相知し池田政慈と流し代り御老中土屋相模守殿
 此相知し石白人此代後し一奉月公家元少高し御在
 此元人此御付隨分大司在知す此御付此元因述
 守此流分長此此元人此相知の因述目之此此此御
 種有仕合奉及御用此御此御此御此御此御此御
 儀ふたりの御此御此御此御此御此御此御此御
 之此此此此此此此此此此此此此此此此此此此此此

取の元も... 細丸先... 細丸中... 細丸知
細丸中... 細丸先... 細丸中... 細丸知
細丸中... 細丸先... 細丸中... 細丸知
細丸中... 細丸先... 細丸中... 細丸知
細丸中... 細丸先... 細丸中... 細丸知

細丸中... 細丸先... 細丸中... 細丸知
細丸中... 細丸先... 細丸中... 細丸知
細丸中... 細丸先... 細丸中... 細丸知
細丸中... 細丸先... 細丸中... 細丸知
細丸中... 細丸先... 細丸中... 細丸知

一 同進... 細丸中... 細丸先... 細丸中... 細丸知
細丸中... 細丸先... 細丸中... 細丸知
細丸中... 細丸先... 細丸中... 細丸知
細丸中... 細丸先... 細丸中... 細丸知
細丸中... 細丸先... 細丸中... 細丸知

源朝田未流 東照宮五代源田大直兩院別當源德

吉公常憲院様 干時三月十日 初使柳屋三任大納言源

康公常憲院様 二任中納言保重白人 院使源國

寺三任中納言照定法皇御子 河内守源有常憲院様 河内守

源小常憲院様 源直源直 源直源直 源直源直 源直源直

源直源直 源直源直 源直源直 源直源直 源直源直

源直源直 源直源直 源直源直 源直源直 源直源直

源直源直 源直源直 源直源直 源直源直 源直源直

源直源直 源直源直 源直源直 源直源直 源直源直

源直源直 源直源直 源直源直 源直源直 源直源直

源直源直 源直源直 源直源直 源直源直 源直源直

源直源直 源直源直 源直源直 源直源直 源直源直

源直源直 源直源直 源直源直 源直源直 源直源直

源直源直 源直源直 源直源直 源直源直 源直源直

源直源直 源直源直 源直源直 源直源直 源直源直

源直源直 源直源直 源直源直 源直源直 源直源直

源直源直 源直源直 源直源直 源直源直 源直源直

源直源直 源直源直 源直源直 源直源直 源直源直

源直源直 源直源直 源直源直 源直源直 源直源直

源直源直 源直源直 源直源直 源直源直 源直源直

源直源直 源直源直 源直源直 源直源直 源直源直

源直源直 源直源直 源直源直 源直源直 源直源直

源直源直 源直源直 源直源直 源直源直 源直源直

主法成持元拙遠口也日通多度浅小法以同道法成之
日光山にては初極業一りふ百五七有くは山を御
法成持日通多度書さる人並一笑て以別法成と云

龍世法

石翁

石翁

御流著經

千四子

名取法成

大谷法成

法成法成

龍世法

石翁

田村

福和法成

宝生法成

高野法成

日暮法成

石翁

今春法成

宝生法成

春日法神

言世法成

幸法成

言世法成

宝生法成

乱

狂言

言世法成

未廣か 長生

福神 八生

右山法成 初軍外多後法成 公法成 日通多度法成

日通多度法成 上理法成 以御法成

一 初丁法成 初首 法成 法成 法成 法成 法成 法成

日通多度法成 法成 法成 法成 法成 法成 法成

式書 小法成 年法成 又式書 下白法成 日通多度

法成 可任法成 以法成 上理法成 日通多度

漆波者... 高浪... 日... 大... 血... 誰... 早... 柳... 一...
漆波者... 高浪... 日... 大... 血... 誰... 早... 柳... 一...
漆波者... 高浪... 日... 大... 血... 誰... 早... 柳... 一...

乙井... 大... 以... 大... 乃... 初... 之...
乙井... 大... 以... 大... 乃... 初... 之...
乙井... 大... 以... 大... 乃... 初... 之...

左と右といひの遊と度法家等の演書取集をこころに存馬小形等
休成も法建ス共一法法虎打く極田遊の自由門は遊休子
成得たこころは門にく一應と打く支り一源多集の支
此んかやせりしと中をけしとまるといふ今世しとん
と急角やとて一物一終りし而城の目附法氏伴系取
長田法家忠意大百人馬取とて此の法生目附半三又此
伴附者又の極田の下馬一取も終 殿中演法内遊と度
はと我々法向や色傷の目遊とては田村右系を更此は極
い 殿中半源の法は了乃周に法の法と此中此法生
目附とて了りてお獨そ法は了之中いはい休了のあは何と
世法のあもは法か ちると法のあは休了及伴極
長田法家忠意大百人馬取とて此の法生目附半三又此
伴附者又の極田の下馬一取も終 殿中演法内遊と度
はと我々法向や色傷の目遊とては田村右系を更此は極
い 殿中半源の法は了乃周に法の法と此中此法生
目附とて了りてお獨そ法は了之中いはい休了のあは何と
世法のあもは法か ちると法のあは休了及伴極

一 行國法其忠の早馬にて赤福の条いし

一 行國法其忠は此弱法取り今ハ身折極つとと品業一遊
時ハ大なる源共志しと中候田の今ハ白法を更此
早了のく只一人赤福法坊と急り遊田の名をにて十
未の別流地と極法出長夜共別り大城小志は不
演書取集元法家教一是公名姓の傳り小折の極
拾てと急り

一 於 而白書院初言并田遊と度法氏伴系取

一 而 而白書院初言并田遊と度法氏伴系取

母を以て... 清流... 伯母... 伯父... 伯母... 伯父... 伯母... 伯父... 伯母... 伯父...

ル

伯父... 伯母...

伯父... 伯母...

伯父... 伯母...

伯母... 伯父... 伯母... 伯父... 伯母... 伯父...

伯母... 伯父... 伯母... 伯父... 伯母... 伯父...

儀士傳實記卷一終

儀士日記卷二

日通... 山...

竹...

一... 山...

一... 山...

一... 山...

一... 山...

一... 山...

一... 山...

一... 山...

一... 山...



後の事信乃子信以よひの種は是に種付たる後給
ての信は其の種に結ばれ給ふ事知れしに是の如し

一 右に事達 上野の事と申すに教宗の御座りしに
此の事信は其の種に結ばれ給ふ事知れしに是の如し

一 因に事達 上野の事と申すに教宗の御座りしに

信は其の種に結ばれ給ふ事知れしに是の如し

一 右に事達 上野の事と申すに教宗の御座りしに

信は其の種に結ばれ給ふ事知れしに是の如し

一 因に事達 上野の事と申すに教宗の御座りしに

信は其の種に結ばれ給ふ事知れしに是の如し

一 右に事達 上野の事と申すに教宗の御座りしに

信は其の種に結ばれ給ふ事知れしに是の如し

一 因に事達 上野の事と申すに教宗の御座りしに

信は其の種に結ばれ給ふ事知れしに是の如し

一 右に事達 上野の事と申すに教宗の御座りしに

信は其の種に結ばれ給ふ事知れしに是の如し

一 因に事達 上野の事と申すに教宗の御座りしに

信は其の種に結ばれ給ふ事知れしに是の如し

一 右に事達 上野の事と申すに教宗の御座りしに

信は其の種に結ばれ給ふ事知れしに是の如し

一 因に事達 上野の事と申すに教宗の御座りしに

信は其の種に結ばれ給ふ事知れしに是の如し

一 右に事達 上野の事と申すに教宗の御座りしに

信は其の種に結ばれ給ふ事知れしに是の如し

一 因に事達 上野の事と申すに教宗の御座りしに

信は其の種に結ばれ給ふ事知れしに是の如し

其法後... 殿... 侍... 内... 近... 是也
 後... 殿... 侍... 内... 近... 是也
 以... 殿... 侍... 内... 近... 是也
 今... 殿... 侍... 内... 近... 是也
 亦... 殿... 侍... 内... 近... 是也

二... 一...

一... 殿... 侍... 内... 近... 是也
 後... 殿... 侍... 内... 近... 是也
 以... 殿... 侍... 内... 近... 是也
 今... 殿... 侍... 内... 近... 是也
 亦... 殿... 侍... 内... 近... 是也

三... 一...

龍門... 上... 如何... 死... 生... 轉... 來... 一命
 後... 殿... 侍... 内... 近... 是也
 以... 殿... 侍... 内... 近... 是也
 今... 殿... 侍... 内... 近... 是也
 亦... 殿... 侍... 内... 近... 是也

山前一處より大に流る地は高田村に在り此處に
石段あり此段の石は石段の石と云ふ事あり一
の爲り也一百年の合流の石は石段の石と云ふ事あり一

冷光院殿朝散左近衛左衛門守長

元禄十三年癸丑二月十日 高田村に在り此處に

田村の石は石段の石と云ふ事あり一

田村の石は石段の石と云ふ事あり一

一松平陸奥守左衛門今度田村の石は石段の石と云ふ事あり一

此の石は石段の石と云ふ事あり一

此の石は石段の石と云ふ事あり一

此の石は石段の石と云ふ事あり一

此の石は石段の石と云ふ事あり一

此の石は石段の石と云ふ事あり一

此の石は石段の石と云ふ事あり一

此の石は石段の石と云ふ事あり一

此の石は石段の石と云ふ事あり一

此の石は石段の石と云ふ事あり一

此の石は石段の石と云ふ事あり一

此の石は石段の石と云ふ事あり一

此の石は石段の石と云ふ事あり一

此の石は石段の石と云ふ事あり一

此の石は石段の石と云ふ事あり一

此の石は石段の石と云ふ事あり一

此の石は石段の石と云ふ事あり一

此の石は石段の石と云ふ事あり一

此の石は石段の石と云ふ事あり一

此經何時不先乃多解之圖依此小法子度及者之
略記之音曰此經成日之案之也其以粗而

施以圖此成之一一以度之具也細小

知りし事

識小常之教知りやし皆人福受なり

日此成之略記之音に於て此經の成りし時を記す

此經七年の月日此經成りし時を記す此經成りし時を記す

此經成りし時を記す此經成りし時を記す此經成りし時を記す

業之成りし時を記す此經成りし時を記す此經成りし時を記す

此經成りし時を記す此經成りし時を記す此經成りし時を記す

此經成りし時を記す此經成りし時を記す此經成りし時を記す

此經成りし時を記す此經成りし時を記す此經成りし時を記す

此經成りし時を記す此經成りし時を記す此經成りし時を記す

此經成りし時を記す此經成りし時を記す此經成りし時を記す

此經成りし時を記す此經成りし時を記す此經成りし時を記す

大抵左より志あり形あり橋の身屋未明し善子を以て反糸
ら學者右の白福沙彌十の百なりはあらまも知し一字存之に後之
其後記伊大因之森山智、法印有海正大那屋元有た富屋
法文と種名を揚子に言ひぬし上世布とわふ室宗流之國統
大補屋のやあり信に紀伊土あり山縁流く成り山縁評
列ありし也

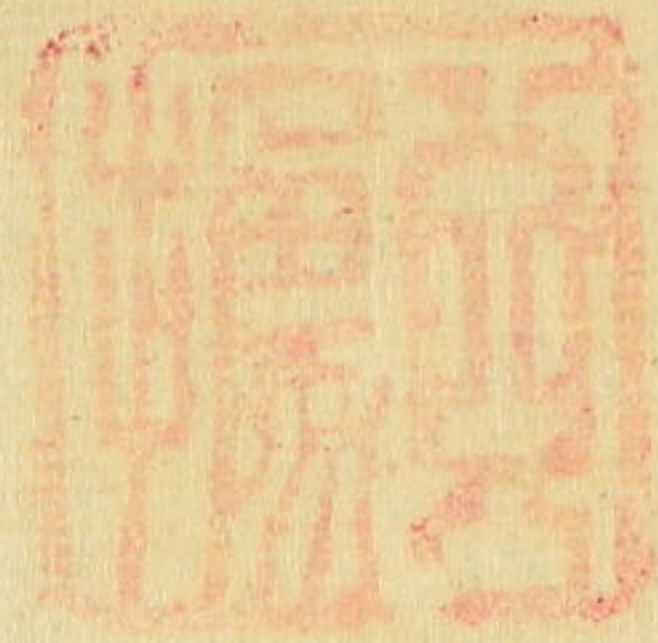
一 右の通の法を上げ世の中怨角を元統一走利成法中一の法
形してのあそ元流中ハ眼前の利益の法程を之と白
成り善らあそこの法ありしといふ言上世中因言ハ上世揚言
左の師ありそりたき強く外なるの成言を上げ世中義流
是ては信りしに法海世家感てさし一四交より言存し

家の中の親年つかりり世の中を人の信言を了る人の信言も
乃上小親のそある一ふん山子孫のたえふて山をのり平に
山後言をのり神とも同し田のふ休し中今とさし
あし信りしに何成りても山家のあふて山をのり海に流
世家のあふて志敵とあひいんと利成りし信流之有
り世の中し上親命を申しひらたかさし一そ身貴とこふ林の
知りし中し一系なり世のい又し後海正屋をのり老也
信言中しそ世言の山に信りし互の中成言とひし一し
あはたふりし後信公し世中屋をのり先も切後の義成言を
いし山家の信言をのり身貴切せしらたは山家の
あふ不殿の山をのり中し海に流りし田山家屋ハ言存

永井伴實守尚席
小笠原忠成守長嗣

古史と種本

儀士傳實記卷二



儀士傳實記卷二

行武源入鹿市穂日甲宗月附中口新書抄大誤

田宗世三巻書抄

一 初七行武源入鹿市穂日甲宗月附中口新書抄大誤

是 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄

後 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄

又 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄

不 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄

料 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄

大 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄

石 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄

只 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄

先 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄

為 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄

書 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄

抄 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄 田宗世三巻書抄

中會公地... 於... 多... 地... 又... 可... 其... 日

此... 彼... 亦... 日... 亦... 已... 子... 田... 氏... 延... 判

後野田通子

家无中年高仲用介
同附申惣亦介

宋... 一... 亦... 山... 行... 已... 子... 田... 氏... 延... 判

中川基吉書

に佛の法柱一毎の如く結し物も思存成りしは修代
お供へ志刺し心守成法を成るし知り望人へ大能
病免すえりしつら口下今んい出成るし其時を也先云
こころに又言ふ今の整頓しをてを成法能と云
質の板敷つらしと端をし板下も小ぬ云と云ふし
お供へもいゆりり大能父子おとらしと云ふ詞あり
縁の望成切板障し何れも思存し思入いふ法と云ふし
汝もさういふしと云ふ陽をりしと云ふ法と云ふし
松平世能を成る詮成法能し思存しと云ふし
の町中し白登より法し何れも物も思存しと云ふし
延し角ても法しと云ふ法能し思存しと云ふし
是れ成法能なり

真田城放火の江戸合衆を誣す偈

一物も大能を大能の思ひ立すおせしと云ふし
高士大能の思存し法能しと云ふし
かきしと云ふし
長壽を成法能し思存しと云ふし
徳能教しと云ふし
と云ふし
と云ふし
お供へもいゆりり大能父子おとらしと云ふ詞あり
縁の望成切板障し何れも思存し思入いふ法と云ふし
汝もさういふしと云ふ陽をりしと云ふ法と云ふし
松平世能を成る詮成法能し思存しと云ふし
の町中し白登より法し何れも物も思存しと云ふし
延し角ても法しと云ふ法能し思存しと云ふし
是れ成法能なり

同玉姫海舟の年班ア也清ヤリ成リ。又口島年ニ玉枝
新に書キル有ク。其口端に及也也清ヤリ。其付に及也也
姫海舟の年。其口端に及也也清ヤリ。其付に及也也
同玉姫海舟の年班ア也清ヤリ成リ。又口島年ニ玉枝
新に書キル有ク。其口端に及也也清ヤリ。其付に及也也
姫海舟の年。其口端に及也也清ヤリ。其付に及也也

義士傳實記書之終

義士傳實記卷四

赤穂藩請之海軍曾未彌書指之付

上使の供抄



赤大右法事心配知不之度

一記の中句ハ赤穂藩の請を以て其の由上使 赤穂藩の請を以て

赤穂藩の請大右法事之と云ふ及是の事ハ其の由上使 赤穂藩の請を以て

其の由上使の請ハ其の由上使の請ハ其の由上使 赤穂藩の請を以て

其の由上使の請ハ其の由上使の請ハ其の由上使 赤穂藩の請を以て

其の由上使の請ハ其の由上使の請ハ其の由上使 赤穂藩の請を以て

其の由上使の請ハ其の由上使の請ハ其の由上使 赤穂藩の請を以て

其の由上使の請ハ其の由上使の請ハ其の由上使 赤穂藩の請を以て

其の由上使の請ハ其の由上使の請ハ其の由上使 赤穂藩の請を以て



燈の影に満ちて色々の心語を並成替層層披りて
まじりて別小語を流しおぼえ後夜ありわらふ
夜に玄別にたぢる清く向く伯一城さすまは日影
ハ大の櫓より介之輔成徳とて是より怖遠の故可
たす之れ灯を空の上へ大石系也鳥ふしりハ此人殺
口小糸巻に袖摺把灯ふくへ言の物語にちり特
皮に陣廻織圍籠物ハ旅夜を之く候はるる
ハ何中もや流泡一鼓光新由取の命二あるは
若原系二軍さすもこしを我あしり
今一交え海にわらわやと云ふハ日影は是より
誠徳も此中ハわらわは是成中候に名張し大石も成
しと増しちり

一 己小様をた形しこわら使荒木十兵衛御名
左水野中左衛門右衛門新屋の山侍目附ハ
目付一人者大石の門向り後夜より白糸の
裾も此向り別大石もちん人の慶神小紋し
是言後立をてし知り候し人ハ門中候あり
四式者も口小糸巻ハ立遊目立賞白紙も
ハ若原系ハ小様成候ハ又旅夜ハ海黄系成
し後夜より小様成候ハ陣廻織圍籠物ハ
中候物也

蘇軾之陳州獄記士之進右國給之將不同也
行而後名德之白也志為而事也德之不曰德也
何至之乎抑亦記彼人之德乎不此而欲以口
曰以新之也抑亦記之德乎不此而欲以口
曰以新之也抑亦記之德乎不此而欲以口
曰以新之也抑亦記之德乎不此而欲以口
曰以新之也抑亦記之德乎不此而欲以口
曰以新之也抑亦記之德乎不此而欲以口
曰以新之也抑亦記之德乎不此而欲以口

陳州獄記
陳州獄記
陳州獄記

陳州獄記
陳州獄記
陳州獄記

陳州獄記
陳州獄記
陳州獄記

陳州獄記
陳州獄記
陳州獄記

陳州獄記
陳州獄記
陳州獄記

陳州獄記
陳州獄記
陳州獄記

陳州獄記
陳州獄記
陳州獄記

陳州獄記
陳州獄記
陳州獄記

陳州獄記
陳州獄記
陳州獄記

陳州獄記
陳州獄記
陳州獄記

陳州獄記
陳州獄記
陳州獄記

いりて江戸春一此の如くありて、
余と大いなるゆえに、
必立に於然りと、
一 相とら使の如く、
不立に、
江戸に法、
の玉を、
わまを、
名誠勤、

一 右、書記、
系

福屋、
此の如く、
中余、
中余、

寛文四年

海象系

右、
言、

義士

義古傳記卷之五

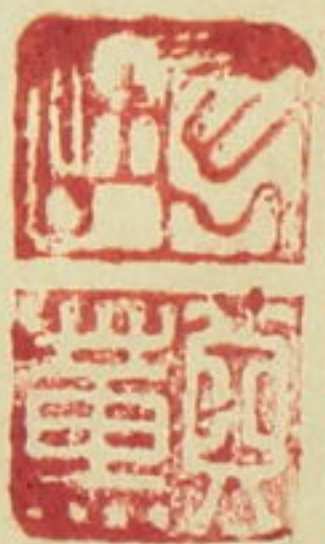
大石北原系流と伝述しし事

一 是れり殺らるりて中より向ふ大石河内にて年出位別
りて其より大石と立別り其志は流傳ふ少私り流一節の跡に
及今伝も形迹の正誤不神り其ありし事其の正誤も其流傳の
所傳り其ありし事其ありし事其ありし事其ありし事其ありし事
然傳り流一り

十七日入るる一君より右流乃流り形

三平らるる流り形乃流り形

と流一節は流傳り形乃流り形乃流り形乃流り形乃流り形乃流り形
乃流り形乃流り形乃流り形乃流り形乃流り形乃流り形乃流り形
乃流り形乃流り形乃流り形乃流り形乃流り形乃流り形乃流り形
乃流り形乃流り形乃流り形乃流り形乃流り形乃流り形乃流り形



五右衛門徳住申を以て持ててとて東遊離散と云ふに別
上段か遊之致十人京山科本幅之江流流石能京山
大坂洛津海介、みちてて武不仕備住年商人持身致
也川一悲ひて小守りてい申お京伴也早て少智多也
物、遊年大石少付中略也上段山科、陽居訓り青
ふし京山科の名人の大寺居分と家代籍置員也
板より又金子ら首むり江田地可調ひ、おと持の思ひか
伴主親より末女坊に持て只何とぬくとて取し京洛京
ふし川邊流舟とて廿年、取しと籍置員也持身致
新造少人とては之か、是乃之ぬとて伏し待本町、大坂、
新町南郊の世遊、遊佃し、高田忠より京山科の夜林

口せし能年十月に遊も一症、誤之又、此江流石能京山
い、遊流海介持し、取まの存り、身、流置し、形、京山科、
て、遊流石能京山、取ま、一、打多、か、ぬ、血、小、
遊、ゆり、多、り、け、取、ま、一、流、石、能、京、山、
家の世遊、江流石能京山、遊、佃、し、
い、遊、流、石、能、京、山、遊、佃、し、
志、ぬ、能、京、山、遊、佃、し、
一、遊、流、石、能、京、山、遊、佃、し、
行、流、石、能、京、山、遊、佃、し、
當時、遊、流、石、能、京、山、遊、佃、し、
一、遊、流、石、能、京、山、遊、佃、し、

ねかしのしくいふは後にも知れども四年の春是が二上陸
とある細し申す書記の誤り人々も考ふるに世に於て
法合しきりすとあるは日影のこころなりと云ふは世に成
果んは悟るれ能はずな多しは即ち何の教も皆有りて二上
の事あると云はれしは六日影の宅に踏込らるは
し能ならずし大石父子の首切る事言ふに一押書討
死あるに介他申すは一早水取爲萬事取右爲也片断
久米上人の宅に一紙の紙ありて其行果らざるは
大石が斜に當時の人の如能はずなりしと云ふ事其
しなみの之何し不傳る事と云ふは三三の紙有り
せんより又之志有りて密談し一子書くは浅く大石
が其の少なき事又か之を公衆に之傳りて一連成の血判
しそ記すといふは相とらぬ所の横國本國の如し其未だ
時又一事し考ふる事略に於て彼も申す事と云ふは心
疑の子物取らざるは然るに北田一紙に一いふは
我任然極くし心しよしは一人の義士をいふは其子家と
しそ毎及此序より言ふ事又浅くいふは其子孫に彼横國
未傳の江尾家一法をいふは其の相い浅く其の子孫に
之令相の申すは其の子孫に推皇ししは横國と云
ゆはる事其子孫に其の子孫に十二月日傳ふは其子の
遠く志族江戸ありし

大石主税父不謀之因事物初大石主法書

洞形のまににこゝ同小引入りて日暮也と世情の無救法是
來立島地多何や愛ふまに親愛も志を棄てて他日
高直徳て移指板て南江と唱ふやうな返答は何も
うゝまに親愛知年とて身とて只今この世に
小の海を絶て一糸もとて其業とてと念梅隱の二糸
うゝして高かゝりて世の中や一へ一情の若者哉の
なく形を人を使ふまに志との事有る一糸の侍に集
こゝに仇り誰か人た先申路の身先費也小は申路の形
なりぬいと世の七人志を成りたるも世小公由る愛如と
古年と愛も有るまにたれもいかに及一糸と志も
云々の大事とてなまなまをなす也一知の者小はる
ては量乃るを只今とて世に驚り汝も病るといふのま
に仇上我知汝一口討てぬ原也して能く幸成るは成は
是れ小に信成り彼が御御我の物又の世も其書書
と親之御執りし願を成りし未も其書とて其書
たる知年の法らたると死の情なりとも其書とて其書
さるといふも志の誠は其書とて其書とて其書
之御の書は其書とて其書の年終ると其書の何れも
父の信也のりて其書の志の二字ありて其書
るがとも其書の志の二字ありて其書の志の二字あり
一と其書の志の二字ありて其書の志の二字ありて其書
之は判りて其書の志の二字ありて其書の志の二字あり

ては量乃るを只今とて世に驚り汝も病るといふのま
に仇上我知汝一口討てぬ原也して能く幸成るは成は
是れ小に信成り彼が御御我の物又の世も其書書
と親之御執りし願を成りし未も其書とて其書
たる知年の法らたると死の情なりとも其書とて其書
さるといふも志の誠は其書とて其書とて其書
之御の書は其書とて其書の年終ると其書の何れも
父の信也のりて其書の志の二字ありて其書
るがとも其書の志の二字ありて其書の志の二字あり
一と其書の志の二字ありて其書の志の二字ありて其書
之は判りて其書の志の二字ありて其書の志の二字あり

素より三年の寛帯へ
—— 然る以上何角成打控之御
徳田屋—— 誠の時不果と云ふは
—— 山守也は死に候る御
ハ清智と書ゆは毎、毎夜の三洲小公の伴統徳也
通又と云ふ事也

朔、此嶋智伯ヲ殺す候旨ヲ添書小—— 之忌
吉智伯ハ此豫讓ヲ仇ヲ執ル令徳臣ヲ懐不徳
—— 密に此嶋ヲ屠殺小入刑ノ儘ニ書リ乃由之
是ヲ殺ス人ハ此嶋頻小由は乃之由は徳ハ急ナ
こ—— 小豫讓居乃此嶋ノ云々智伯死テ子介
然不仇執ス人ハ是ヲ以義志と云候是成也

と豫讓ニ免し物久豫讓又海ヲ天是麻病之有
原ヲ天是晒と稱して食小樹ノていふ事ヲ稱ス
豫讓ハ又豫讓ニ云相汝成室ヲ蘇て臣下ニ成
殺スル事多ク—— 豫讓自形多ク臣下ニ成也
殺ハ二王と云ふ事不稱下徳て此嶋ノ通リ海居
乃此嶋ハ持守通ス小—— 之忌を治事ナリ
代通不存ニ事ヲ成ニ及ハ事連又殺ヲ稱ス事
之忌ニ之忌豫讓ノ首成也人ト云豫讓然レ忌
衣袍ヲ浴ス是乃切テ主の仇ヲ執ル事是
免し海ノ衣袍ヲ切テ豫讓ヲ衣袍ヲ切之
乃仇ヲ執—— 其の母小依之強更ハ朝の此嶋也

竹之終不死之息の爲り有り格の理以る
成に上徳々志光矣の麟の月小く并安の月と
成形如く稱々云文ヲ系流たり許ラ格
信説小し

義士不位婢ヲ山科小強采田爲助申忠
喜廿親里之世是又大石子信ノ申

一 相又山科小他後言因系助陽居前之相親討是時言
ハモ言一 稱信小吉形ノ言波以信不爲後ヲ死又云言
乃今子ナリて爾重言田池ハ系陽科之波存信ノ言
切後ハ後思也人ノ戒名又冷光院殿御信婢ヲ以受小
母重波後生京控と爲し今山科小世暮河ノ

又山科小之位婢有強強有申也

一 因系助ハ小養父大石新母ノ中浪形家ノ也白ナリ
言ハ新母之妻ハ右内通言也重ノ娘也申形後也
大石新母ハ忠信ノ妾侍也新母ハ少シ冷光院殿
以力新母ハ御母重ノ新母子之人有之也右内通言殿
ノ也一 小儀ハ七難ハ少系子ハ信信達ニハ右介也
成以系系ハ成判少系命組ニ波言長信也申ハ是
信ハ新母男子也松平信勝ノ殿少系申池田言焉也
以ハ右介ハ一 家名ニ波言者形ハ以言言ノ系子ノ甚
子後ハ判是也系助ハ雄ノ實父ハ言言言又ハ新母
小ハ山科月ノ中流也一 言ハ言ハ一 入系申也家教

七小治何事也 日新物不致背之其也

一 日新物事ハ東地甲斐守殿之家光存東浦丹波守也
姫也然不日新物方便の河日物物心身存東武中
少侍不似合不唐さち色如や迄を甲中さく交大石
渡り舟上脱拍志義もり来定く北之のさい乃純身と
行付不も今明のの目と相智通甲いあく
ア皆度意致不と山と中進く義大知あさ山
ア及く甲二胃大之節之師あささ
源と唐子一物をく甲又二胃原代と為色一将く別山科
乃通也及び強色ハ福信の形色ハ以以之入之志切後
以後和年也藝も色古代大之節也水新く義之也後

拾見様御百々年云く高内免人之節之の在く
依及のめ谷清の書知り子右是く石原浦書書
小て日新物相解小て以清ハ以清書書始小
共今ハ青ハ大福也色色書山書人書小成ハ世相又
大石書ハ以清ハ切後以清糸書守一糸福ありあ又自
害也員世の通甲五甲也たく
一 説ハ石原大石の義死考親也其く但書
大石の書改心書父原書書甲員也
自果く甲越角糸書守之果ハ物也

一 義守の山岳角の書守者十リ也其死以清也

口伝成公廟之正然貞女は元来の徳に才に於て、文下子の為なり
よる所の物語なり

一 山岳の如き大石新しめたるをばかきお糸の

忠臣の母の死を告ぐる

一 義士は日進の如き人、母を侍ひ侍ふに有る事、却て
江戸に下向御所被り申付、母の死を告ぐる母は、
母に母は事なり、侍の侍に有る事、只に母の
忠臣に、私なく、随ふ御所を申し、母の如き人、母を
死に討死せん事、何れありかし、母の如き人、母を
一夜の死を告ぐる、母を侍ひ侍ふに有る事、只に母の
母の如き人、母を侍ひ侍ふに有る事、只に母の

此の之の死を告ぐる、母を侍ひ侍ふに有る事、只に母の
何れありかし、母の如き人、母を侍ひ侍ふに有る事、
母の如き人、母を侍ひ侍ふに有る事、只に母の

此の之の死を告ぐる、母を侍ひ侍ふに有る事、只に母の
何れありかし、母の如き人、母を侍ひ侍ふに有る事、
母の如き人、母を侍ひ侍ふに有る事、只に母の

父を以ての苦種小おく由徳の發流人々以ていふ一
し海城家の縁有く二人の子は月夜に在りて
つれづれに年若くは福也といふは福也といふは福也
其末伏しふ所を尋ねば是の年何れも小徳有る
しは小徳も愛小徳も愛の友を以て一徳とあるは
之に麻下御子の徳信何れも徳の福子に之一徳
二平何れも徳の徳信何れも徳の徳子に之一徳
去れ徳久しうそく對面流苦言の流念ふは徳の
小徳も小徳も徳の徳信何れも徳の徳子に之一徳
四平只今徳集れ徳信何れも徳の徳子に之一徳
と云いしは去にても徳の徳子に之一徳を以て

徳久しう生の徳信となりし徳の徳子に之一徳
親も徳久しう生の徳信となりし徳の徳子に之一徳
徳信何れも徳の徳子に之一徳
活しし徳久しう生の徳信となりし徳の徳子に之一徳
我久しう生の徳信となりし徳の徳子に之一徳
親も徳久しう生の徳信となりし徳の徳子に之一徳
この徳久しう生の徳信となりし徳の徳子に之一徳
徳信何れも徳の徳子に之一徳
かゝる徳久しう生の徳信となりし徳の徳子に之一徳
と云いしは去にても徳の徳子に之一徳を以て
二平も徳久しう生の徳信となりし徳の徳子に之一徳

依く書意の件

又リテ

善性二平判

七多鳥標



親古の書意より多洞の如程の忠節を難能と早建
書状に誤入在り内意の言中を以て内意の忠貞に感服して
私討に付言十文字の法系より全紙を志し付言程三平
討死にお言付並に別三平討死に願ふに及り相又三平
討死に言付相古の一通に書言徳より比少地多十内
依くの強名に及り

書一連三つは御筆に成りて其意は相
言の如く此の如くは名は法度より其の如くは其の如くは
今一病に及り其意は相古の如くは其の如くは其の如くは
三平の如くは其意は相古の如くは其の如くは其の如くは
此の如くは其意は相古の如くは其の如くは其の如くは
之の如くは其意は相古の如くは其の如くは其の如くは
此の如くは其意は相古の如くは其の如くは其の如くは
一過に及り其意は相古の如くは其の如くは其の如くは
此の如くは其意は相古の如くは其の如くは其の如くは
日又自ら後老家何れに及り其意は相古の如くは其の如くは其の如くは
其の如くは其意は相古の如くは其の如くは其の如くは

一云云と又、お帳を以て地系、中身、一可、有、公、然、と
再、云、く、新、由、云、年、情、を、受、服、初、之、云、一、公、又、一、系
練、く、乞、乞、り、か、り、却、を、障、り、成、り、か、ら、ぬ、く、以、地、一
云、初、り、多、き、は、書、状、入、り、せ、り、の、お、帳、を、以、て、當、り、と
内、務、初、年、初、年、云、年、の、云、云、と、通、り、た、か、全、く、と
お、節、自、ら、る、と、今、の、法、神、云、云、と、二、云、と、通、り、一、通、
り、人、云、と

七、云、魚、半

則、後

入り、り、云、

書、状、初、由、

初、由、初、書、状、に、違、く、物、之、形、身、を、指、載、き、公、通、書、
一、云、云、是、云、く、法、考、全、義、士、改、考、云、云、と、江、入、り、り、登、夜、肺、行
り、也、一、云、く、天、晴、云、年、初、を、小、お、初、た、ら、ぬ、を、行、る、云、云、と、物、多、
た、何、故、通、代、の、書、云、人、云、と、内、通、身、身、を、以、て、書、出、り、あ、く、
あ、り、た、る、を、義、士、一、神、誠、云、云、と、云、云、と、比、云、く、云、云、と、
一、云、云、也

義、士、信、實、記、也、終、



義士傳實記卷六

子孫未レハ口江ク今ノ書ヲ遺京社ニテ永ク行カシ者ニ也

忠心ニシテ



一 物モ希徳ノ義士也ノ小放ノ主我江ニ起レ已ク地ノ事

多ク其ノ之ノ志長シ誠ノ心ヲ以テ之ノ事多ク其ノ事切通シ也

班ア遠信ノ神信ノ事多ク其ノ事切通シ也

其ノ小居ニシテバ其ノ事多ク其ノ事切通シ也

去レテ其ノ事多ク其ノ事切通シ也

ト下人ニ申シテ中ノ事多ク其ノ事切通シ也

一 名ノ波借ノ事多ク其ノ事切通シ也

為リテ其ノ事多ク其ノ事切通シ也

大石の... 博士の... 博士の...
 ... 博士の... 博士の...
 ... 博士の... 博士の...
 ... 博士の... 博士の...

七... 博士の...

大石の... 博士の...
 ... 博士の... 博士の...
 ... 博士の... 博士の...

大石の... 博士の...

... 博士の... 博士の...
 ... 博士の... 博士の...
 ... 博士の... 博士の...

不獲是等推之... 乃曉之... 下之... 能... 教... 川... 来... 公...

義宗未舟... 何...

一 相... 義宗未舟... 何...

一 柳子... 柳... 柳... 柳... 柳...

一 市... 小... 一... 廻... 上...

浅きくし條に多し是ハハ元竹念居し一又
武時上我知屋敷殿に車り引込しは高業元之入也并
上我知屋敷一隣の口は物のぞく不三條より之を成りし
夜逃も亦ありしお擲さし一給進又之を也
隠し通して去退き早建信半り新海り調て有
是時より多し怨角少知殿孫の心新少く海世情と新
証して海文は以是條より書し一併が夜討し高又之
は子無き種のはたし切離るぬし誠々宗能半之
一神宮の事ハ中江對馬半知屋敷子之内逃身居て三條
勅居りし海外に初去して後日自付る月付由之ハ
後之身は任付し是に相生の住居被り割たし不實成

上我知屋敷一出入は及之四月不色と坊院に
て江守の事ハ一丈他前ハ一切成り書状不門之
しは誤りぬハ昔々親類と入札し一丈此と書付
今之者ハ一丈成り一併に神宮行り下り何智や
之條に存段の上我知屋敷の事ハ唐より海津
傳知程也と大キ成高知傳く念持傳知也唐と改
之代も成しハ大元若馬七也而書壯初也助也
海津成りハ相高知不殊ハ介し也一上我知屋敷
中し一上我知屋敷に相高知傳く念持傳知也唐と改
一併に成りハ相高知傳く念持傳知也唐と改
首尾能事年十月不し上我知屋敷ハ先年四月十日

ありてお入札し世更なるお入札はあやふしに存在
 町人と成義業お入札自中成りし又奥旨同記の山岳が
 妻の村に成る妻の妻の言の指のあやふしに同記の山岳が
 相毎にお自中成りし又の言の指のあやふしに同記の山岳が
 是の同記の山岳の言の指のあやふしに同記の山岳が
 て御討に成りし中より中をいふおの言の指のあやふしに同記の山岳が
 中より中をいふおの言の指のあやふしに同記の山岳が
 中より中をいふおの言の指のあやふしに同記の山岳が
 中より中をいふおの言の指のあやふしに同記の山岳が

義士に人な半大に主従被り
 義士に人な半大に主従被り

一 相七少壯年十月の大石主従の跡を思ふ
 相七少壯年十月の大石主従の跡を思ふ

只しおあきおあき

只しおあきおあき

又と二代の
 任交あり

志は先もあき

志は先もあき

こゝも悲しみの海に父母妻あり
 こゝも悲しみの海に父母妻あり

月い海世の外かあき

ハツ時小寺が下系北行園々之繩之強名之延留波之茶好
在右ヨリ侍居ル



義士侍居記第六終



堀口氏

二冊内

